

学校の在り方地区検討委員会（東青地区）

《 検討結果報告書 》

令和8年6月1日

目 次

1	中学校卒業者数の推移と全日制課程の募集学級数の見込み.....	1
2	学校の在り方に関する主な意見.....	2
	（1）目指す学校像.....	2
	（2）単位制.....	2
	（3）少人数学級編制.....	2
3	全日制課程の学校規模・配置.....	3
	（1）学校配置シミュレーション.....	3
	ア 学級減（大規模校から）で対応.....	3
	イ 学級減（志望倍率の高い学校・学科は除く）で対応.....	5
	ウ 学級減（専門学科は除く）で対応.....	6
	エ 学校の新設（青森北高校、青森南高校、青森中央高校の募集停止）で対応.....	9
	オ 学校の統合又は新設（青森市の西・中央・東の3地区）で対応.....	11
	（2）シミュレーション以外の学校規模・配置等に関する意見.....	12
4	定時制課程及び通信制課程に関する意見.....	14
5	その他.....	15
	【参考1】委員名簿（東青地区）.....	16
	【参考2】オブザーバー名簿（東青地区）.....	17
	【参考3】学校の在り方地区検討委員会の開催状況（東青地区）.....	18
	【参考4】地区懇談会（令和7年10月実施）等の主な意見.....	18

1 中学校卒業生数の推移と全日制課程の募集学級数の見込み

		東青	西北	中南	上北	下北	三八	県計
中学校卒業 予 定 者 数	R9	2,208人	827人	1,933人	1,442人	479人	2,265人	9,154人
	R14 (対R9)	1,894人 (△314)	756人 (△71)	1,816人 (△117)	1,343人 (△99)	392人 (△87)	2,027人 (△238)	8,228人 (△926)
	R19 (対R9)	1,489人 (△719)	552人 (△275)	1,399人 (△534)	1,086人 (△356)	285人 (△194)	1,508人 (△757)	6,319人 (△2,835)
県立高等学校 募集学級数	R9	42c1	17c1	36c1	32c1	12c1	37c1	176c1
	R14 (対R9)	36c1 (△6)	15c1 (△2)	34c1 (△2)	27c1 (△5)	11c1 (△1)	35c1 (△2)	158c1 (△18)
		37c1 (△5)	15c1 (△2)	35c1 (△1)	27c1 (△5)	11c1 (△1)	35c1 (△2)	160c1 (△16)
	R19 (対R9)	29c1 (△13)	11c1 (△6)	27c1 (△9)	22c1 (△10)	9c1 (△3)	26c1 (△11)	124c1 (△52)
		30c1 (△12)	11c1 (△6)	27c1 (△9)	23c1 (△9)	9c1 (△3)	27c1 (△10)	127c1 (△49)

※ 募集学級数の上段は、現行どおりの学級編制とした場合、下段は、商業科及び家庭科で少人数学級編制を実施した場合。

※ 中学校卒業予定者数は、各年3月の見込み。

※ 地域校及び令和10年度に配置する地域共育校は、学級数が変動する可能性があるため、西北・上北・下北・三八地区においては、募集学級数に変動が生じることがある。

2 学校の在り方に関する主な意見

(1) 目指す学校像

- 青森市の特色に対応できる人財を育成する必要がある。
- 小・中学校や地域と連携した教育、故郷に貢献する意識の高揚を図る教育、地域に着目した探究学習、学力向上を図る教育、将来の生活や社会を見据えたキャリア教育等を推進する必要がある。
- 各校の特色化、魅力化を図る必要がある。
- 生徒の自主性を尊重する高校づくりが必要である。
- 多様な生徒への支援を充実させる必要がある。

(2) 単位制

- 多様な子どもたちの柔軟な学びのため拡充する必要がある。
- 学びを途切れさせないための単位制を活用した新しい学びの場も必要である。
- 拡充する場合は教員数が必要になるため、教員配置についても検討が必要である。
- 単位を修得できなかった生徒への対応を考える必要がある。
- 子どもたちにも分かるように説明する必要がある。

(3) 少人数学級編制

- 教員数が減らないよう、県で予算を確保して少人数学級編制を実施し、学級数を維持する必要がある。
- 多様な生徒への対応や、実習が多い職業学科における教育活動を考えると、少人数学級編制の実施は重要である。
- 少人数学級編制の教育的効果は高いが、規模の利益を失うおそれがある。

3 全日制課程の学校規模・配置

(1) 学校配置シミュレーション

各シミュレーションは、本委員会において様々な観点で検討した学校配置案である。

ア 学級減（大規模校から）で対応

第2期実施計画		前期実施計画
R 9		R 1 4
青森 6学級	△6学級 →	青森 5学級
青森東 6学級		青森東 5学級
青森北 普通科4学級 スポ科1学級 5学級		青森北 普通科3学級 スポ科1学級 4学級
青森南 普通科3学級 グロ探1学級 4学級		青森南 普通科3学級 グロ探1学級 4学級
青森中央 4学級		青森中央 4学級
統合校 6学級		統合校 5学級
青森西・浪岡 0学級		
青森工業 6学級		青森工業 5学級
青森商業 5学級		青森商業 4学級
4 2学級	→	3 6学級

シミュレーションに関する意見

- 各校を満遍なく減らした方がよい。
- 高校としては3～4学級はあってほしいので、前期は青森高校、東青地区統合校、青森東高校、青森北高校の普通科、青森工業高校、青森商業高校から、それぞれ1学級減らしていくのが妥当である。
- ◇ 全体的に不満が少なく、理解は得られやすいが、高校が小規模化する中でどのように教育活動を充実させるかが重要である。
- ◇ 満遍なく学級減した場合、教員数も減少するため、県として教員を加配し、教育活動の充実を図る必要がある。
- ◇ 特定の高校を失うことは避けられるが、後期実施計画においては統廃合が必要となる。
- ◇ 前期実施計画では大規模校からの学級減で対応しながら、後期実施計画に向けて、志望倍率や特色ある学科の維持等を踏まえた検討が必要になる。
- ◇ 各校の学級数を減らしながら、新しい特色を持った高校づくりを目指すべきと考える。

○：シミュレーションの基となった意見

◇：シミュレーションに対する意見

イ 学級減（志望倍率の高い学校・学科は除く）で対応

第2期実施計画		前期実施計画
R 9		R 1 4
青森 6学級		青森 6学級
青森東 6学級		青森東 6学級
青森北 普通科 4学級 スポ科 1学級 5学級		青森北 普通科 3学級 スポ科 1学級 4学級
青森南 普通科 3学級 グロ探 1学級 4学級	△6学級 →	青森南 普通科 3学級 グロ探 0学級 3学級
青森中央 4学級		青森中央 3学級
統合校 6学級		統合校 5学級
〔青森西・浪岡〕 0学級		
青森工業 6学級		青森工業 5学級
青森商業 5学級		青森商業 4学級
4 2 学級	→	3 6 学級

シミュレーションに関する意見

- 志望倍率が高い高校は学級減を考えなくてもよい。
- ◇ 中学生のニーズを踏まえた対応である。
- ◇ 青森高校や青森東高校から首都圏の大学に進学する生徒が増える可能性がある。

○：シミュレーションの基となった意見

◇：シミュレーションに対する意見

ウ 学級減（専門学科は除く）で対応

第2期実施計画		前期実施計画
R 9		R 1 4
青森 6学級	△6学級 →	青森 5学級
青森東 6学級		青森東 5学級
青森北 普通科4学級 スポ科1学級 5学級		青森北 普通科3学級 スポ科1学級 4学級
青森南 普通科3学級 グロ探1学級 4学級		青森南 普通科2学級 グロ探1学級 3学級
青森中央 4学級		青森中央 3学級
統合校 6学級		統合校 5学級
青森西・浪岡 0学級		
青森工業 6学級		青森工業 6学級
青森商業 5学級	青森商業 5学級	
42学級	→	36学級

シミュレーションに関する意見

- 多様な子どもたちのニーズに対応するため、現状の学科は維持する必要がある。
- 専門学科は維持する必要がある。
- 持続可能な社会の実現のため、専門的な学びができる工業高校や商業高校は統廃合すべきではない。
- 産業に関わる人財育成やキャリア教育の観点から、青森商業高校と青森工業高校は学級数を維持する必要がある。

- ◇ 人財不足が叫ばれていることから、この観点は重要である。
- ◇ 中学生の進路志望が具体化してきているため、進路選択肢としての工業高校や商業高校の維持の観点が重要である。
- ◇ 学級減が学科の消滅に繋がる場合があるということだが、高校教育に詳しくないため判断が難しい。県教育委員会として、こどもたちのために当該学科が必要かどうかを判断すべき。
- ◇ 将来を見据え、生徒の能力を磨いて社会に送り出すために必要な学科なのであれば残すべき。

○：シミュレーションの基となった意見

◇：シミュレーションに対する意見

※ ア～ウの複数のシミュレーションに関する意見

- 学級減が令和14年度に行われるのであれば、事前に周知した上で東青地区統合校を対象としても問題ない。
- あらかじめ学級減の方針を示すのであれば、東青地区統合校を対象としても問題ない。
- 東青地区統合校の学級減の可否については、高校教育にあまり詳しくないため、県立高校の校長の意見を聞き、最適な答えを導き出す必要がある。
- 統合した後すぐに学級減となるのは学校運営上の影響が大きいため避けるべき。
- 学級減をしながら、普通教育を主とする学科における新たな学科（以下「新普通科」という。）の設置等により高校の特色化を図るなど、戦略的な学校配置等を検討すべき。
- 学級減により対応する考え方もあるが、ある程度の学校規模を維持した上で戦略的に取り組むことが効果に繋がる。
- 学校規模が小さくなると学校の活力が弱まることが課題であり、教員の減少、特別活動や部活動の衰退等、高校としてふさわしいと言えるのかという状況にもなり得るのが実情。高校教育とは何かを考えると、ある程度の学校規模が必要である。
- 高校教育とは何か、東青地区にとって何が必要か、本当に子どもたちのことを考えた戦略なのか等を考えるとともに、小規模校では活力が失われ、学校経営等において困難さがあるという共通認識を持つ必要がある。
- 学級減で対応し、通学しやすい高校を残してほしい。学級減である程度対応した結果、統合が必要となれば、委員会等を立ち上げて統合について検討すべき。

エ 学校の新設（青森北高校、青森南高校、青森中央高校の募集停止）で対応

第2期実施計画	前期実施計画	
R 9	R 1 4	
青森 6学級		青森 6学級
青森東 6学級		青森東 6学級
青森北 普通科 4学級 スポ科 1学級 5学級		新設校 探究科 6学級
青森南 普通科 3学級 グロ探 1学級 4学級	Δ6学級 →	
青森中央 4学級		統合校 6学級
統合校 6学級		
青森西・浪岡 0学級		
青森工業 6学級		青森工業 6学級
青森商業 5学級		青森商業 5学級
4 2 学級	→	3 6 学級

3校 13学級を募集停止し、
探究科 6学級の高校を新設
※ 新設校以外のいずれかの学
校で 1学級増が必要。

シミュレーションに関する意見

- 鉄道路線を考慮すると青森東高校、青森高校、統合校が教科指導に力を入れる高校となり、青森南高校グローバル探究科、青森北高校スポーツ科学科、青森中央高校総合学科の特色を備えたパイロット校の設置も考えられる。
- 探究科については、青森中央高校、青森南高校、青森北高校の3校を合わせて探究学習をけん引する高校として新設するのがよい。
- ◇ 3校の統合について、事務局からの提案なのであれば、地域に根差した高校が存在しているため、更なる協議が必要である。
- ◇ 高校の活力という観点で、6学級を維持できるのであれば新設校の設置による対応も選択肢の一つである。
- ◇ こどもが減少する中では、本案のように抜本的な改革が必要である。

- ◇ 新設校に探究科と青森北高校のスポーツ科学科を併置させるのは難しい。東青地区にスポーツ科学科は必要であるため、多様なスポーツ活動が可能な大規模校、例えば東青地区統合校への設置や、スポーツ探究科への改編等が考えられる。
- ◇ 新設校の立地に関する情報が曖昧である。
- ◇ 青森北高校が青森南高校と距離が離れ過ぎていること、生徒の学力や高校の特色が異なること等により、3校が1校になるイメージを持ってない。新設校の学級数の調整が必要となるが、青森北高校を募集停止せず、青森南高校と青森中央高校を募集停止し、新設校を設置する方が現実的である。
- ◇ 学級減で対応するという意見が多い中、本案について検討することは理解に苦しむ。
- ◇ 本年2月に国の高校教育改革に関する基本方針が示され、それを踏まえて県としてこのような学校を作っていくとなった経緯があるので、本案が提案され、報告書に記載することに疑問はない。
- ◇ 探究科の学びのイメージが伝わりにくく、令和10年度から令和14年度までの間でこの学校配置が行われる場合、地域の方々が納得できるとは思えない。
- ◇ 市外から通学しやすい高校を残してほしい。
- ◇ 新設校以外の高校で学級増が必要となる。その際には志望倍率の高さや職業学科の充実といった視点を踏まえて戦略的な学級増を行うべき。社会のリーダー育成等の観点からは青森高校や青森東高校などの学級増も考えられるが、学校名を具体的に示すことは難しい。

○：シミュレーションの基となった意見

◇：シミュレーションに対する意見

オ 学校の統合又は新設（青森市の西・中央・東の3地区）で対応

第2期実施計画		前期実施計画
R 9		R 1 4
青森 6学級	Δ6学級 →	東地区 ○○科○学級
青森東 6学級		○学級
青森北 普通科4学級 スポ科1学級 5学級		西地区 ○○科○学級
統合校 6学級		○学級
青森西・浪岡 0学級		
青森南 普通科3学級 グロ探1学級 4学級		中央地区 ○○科○学級
青森中央 4学級		○学級
青森工業 6学級		青森工業 6学級
青森商業 5学級		青森商業 5学級
4 2 学級	→	3 6 学級

6校31学級を
3校25学級に統合
※ 1校当たり8.3学級。

※ 学級数が未定の高校については、学級数を「○学級」と示している。

シミュレーションに関する意見

- 青森市東部の青森高校と青森東高校、西部の青森北高校と統合校、中央部の青森南高校と青森中央高校をそれぞれ統合することが考えられる。
- ◇ こどもが減少する中、いずれは本案のような状況になるため、抜本的な改革が必要である。
- ◇ 青森工業高校と青森商業高校は市東部に立地しているため、地区全体を見ると学校配置が偏っている。
- ◇ 統合校が使用する校舎や東青地区統合校が再度統合されること等の課題があり、現実的には難しい。
- ◇ 東青地区統合校を再び統合するのは教員の負担が大きく、現実的ではない。

○：シミュレーションの基となった意見

◇：シミュレーションに対する意見

(2) シミュレーション以外の学校規模・配置等に関する意見

<学校規模・配置>

- 生徒数や教員数の減少により教育活動に影響が出るため、ある程度の学校規模が必要であり、教室確保や教員配置にもしっかりと対応する必要がある。
- 様々なコースの存続や魅力ある高校づくり、地域の思い等を踏まえ、現状の学校配置を維持しながら、学校規模は適切に対応するのがよい。
- 通学の負担を踏まえ、東部に学校配置が偏らないようにする必要がある。
- 東青地区が持続可能な地域社会として生き残るため、人財育成や地理的な視点を踏まえ、地区として戦略的に学校規模・配置を考える必要がある。
- 中南・三八地区や私立高校との兼ね合い、地域の産業構造等を踏まえた検討が重要である。
- 青森高校の役割を検討する必要がある。

<学級減>

- 東青地区は少子高齢化、生産年齢人口の減少、過疎化等の影響を受けやすい。学級減で対応するのはいつまでか、また、その後どう対応するのが重要である。

<統合等>

- 教育環境の充実や生徒同士の競争による学習効果の向上が見込めるが、地域住民への影響が課題である。
- 小規模な小学校から大規模な中学校に進学した場合に適応できない生徒が多いことを踏まえると、適切に統廃合を実施すべき。
- 統合を円滑に進めるためには、統合対象校同士の連携を深めることが大事である。

<学科等>

- 学科として設置する場合には専門的知識が必要となることから、設置する学科については県教育委員会において検討し、提示するのがよい。
- 自治体の技術職人財を育成するコースの設置が考えられる。
- AIについて学ぶ学科等を工業高校や商業高校に設置することも考えられる。
- 時代のニーズに合った学科や将来の職業に繋がる学科の設置が考えられる。
- 他県には無い東青地区特有の学科の設置が考えられる。
- こどもたちに考えさせて設置する学科であれば学校の特色になる。
- 社会からの求めやこどもたちの選択肢の拡大、新たな学びによる地域課題の解決や将来を見据えた人財育成等の視点で、新普通科の設置には意味がある。
- データサイエンス科で学ぶ内容や想定される卒業後の進路等について具体的に示しながら、中学生がその学科の学びを理解し、夢を持って進学できるよう、高校と中学校とが連携して周知する必要がある。
- データサイエンス科については、教員の確保や学習内容の共通性の確保等の高校側の体制整備のほか、地域や外部人材との協力体制、社会教育と連携した新たな協力体制の構築等が重要である。

- 新普通科の設置を見据えると、高校の小規模化を防ぎ、余裕のある教員配置ができる高校を増やすことを考えるのもよい。
- 現在普通科のみを有し、かつて理数科があった青森東高校にデータサイエンス科を設置することで、新たな魅力が打ち出せる。
- 多くの普通高校がある東青地区においては、新普通科を3つとも設置することも考えられる。

<その他>

- 高校教育に精通していない委員が多い中で、県立高校の校長からの情報提供が無いままでの意見交換をもって、委員会の意見とするのは適切ではないという思いがある。一方で、これまで時間をかけて協議してきたことも事実であることから、それらを踏まえて県教育委員会において適切に判断すべき。

4 定時制課程及び通信制課程に関する意見

- 広域通信制高校への入学者数が増える中、本県の定時制・通信制課程の在り方を見直す必要がある。
- 今後も生徒の多様化が進むため、定時制・通信制課程を増やすべき。
- 特別支援学級に在籍していた生徒や不登校経験を有する生徒が増えている中、柔軟な学び方として学習時間の選択ができるとよい。
- 多様な教育機会を保障する意味で北斗高校の役割は大きく、多様な子どもたちやその保護者からのニーズが高いため、募集人員を増やしてもらいたい。
- 北斗高校のように多様な生徒に対応できる高校が、あと1～2校あるとよい。
- 北斗高校などの定時制・通信制課程の高校に、特別支援教室や校内支援センターがあるとよい。
- 工業高校と商業高校に定時制課程を設置するとよい。
- 定員割れしている高校に定時制・通信制課程を設置するとよい。
- 生徒のニーズの多様化へ対応し、広く学習機会を提供するため、現在の配置を維持してもらいたい。
- 遠方から通学している生徒を対象に、自宅により近い協力校でスクーリングを受けられる体制の整備など、通学の負担軽減に向けた取組を検討してもらいたい。

5 その他

- 学校配置や統合等を検討するに当たっては、東津軽郡のこどもたちの通学環境を考慮し、通学のための交通手段や下宿・寮の費用を含めた経済的負担への支援等を検討する必要がある。
- 県や高校が通学支援を行った上での統合であれば納得できるが、そうでなければ経済的負担が増加する。
- 近隣の市町村から通学する生徒の通学手段の確保について、市町村と連携して検討する必要がある。
- 青森北高校今別校舎が閉校になった際、上磯地区のこどもたちは青森北高校に通学が可能であるという説明があったため、上磯地区からの通学という点で、青森北高校は存続させてほしい。
- 高校がなくなると地域の活力が失われるため、統合等を検討するに当たっては、地域性についても考慮する必要がある。
- 高校の魅力化に向けて、各校のカリキュラムマネジメントに県教育委員会も一体となって取り組むことが必要である。
- 教員不足を補うために統合して大規模校を増やすという考え方でなく、県として予算をかけて教員数を増やすべき。
- 各校の特色化が進むと特色の均質化が起こる可能性があり、高校の特色化にも難しさがある。
- 専門高校の生徒だけで地元定着を図るのは心もとなく、普通高校においても地域に根差した特色ある教育が大事である。
- ICTの活用や遠隔教育の実施においては様々な課題がある。
- 偏差値が高い高校に進学させるという考えを見直したほうがよい。
- 少数意見であっても委員会の意見として扱う場合は、委員会の意見が必ずしも我々の総意による意見ではないことが伝わるように配慮すべき。

【参考1】委員名簿（東青地区）

区 分	職 名 等	氏 名	備 考
市 町 村 長	青森市長	西 秀 記	
	平内町長	船 橋 茂 久	
	今別町長	阿 部 義 治	
	蓬田村長	八 戸 慎 幸	
	外ヶ浜町長	山 崎 結 子	
学 校 教 育	青森市教育委員会 教育長	工 藤 裕 司	
	平内町教育委員会 教育長	渡 辺 伸 一	
	今別町教育委員会 教育長	佐 藤 泰 仁	
	蓬田村教育委員会 教育長	吉 崎 博	R7. 11. 14～R7. 12. 2
	蓬田村教育委員会 教育長	久 慈 和 寛	R8. 1. 26～
	外ヶ浜町教育委員会 教育長	五十嵐 義 人	
	青森市立佃中学校 校長	黒 丸 健 吾	R7. 11. 14～R8. 4. 6
	青森市立筒井中学校 校長	木 村 文 俊	R8. 4. 23～
	蓬田村立蓬田中学校 校長	佐 藤 由 孝	R7. 11. 14～R8. 3. 31
	外ヶ浜町立蟹田中学校 校長	竹 内 裕 樹	R8. 4. 23～
	元県立青森高等学校 校長	成 田 昌 造	進行役
前県立青森商業高等学校 校長	三 上 雅 也		
P T A	青森市立荒川中学校PTA会長	白 鳥 里 恵	
	今別町立今別中学校PTA会長	横 岡 千和子	R7. 11. 14～R8. 3. 31
	平内町立平内中学校PTA会長	須 藤 隆 幸	R8. 4. 23～
産 業 界	青森商工会議所青年部 副会長	佐々木 淳 吉	
	平内町商工会青年部 監査委員	工 藤 成 峰	

【参考2】オブザーバー名簿（東青地区）

■ 令和7年度

職名	氏名	備考
県立青森高等学校 校長	高橋 英樹	
県立青森西高等学校 校長	岡 一仁	
県立青森東高等学校 校長	千葉 栄美	
県立青森北高等学校 校長	三浦 真	
県立青森南高等学校 校長	久保田 千夏	
県立青森中央高等学校 校長	川野 優子	
県立浪岡高等学校 校長	岩井 友之	
県立青森工業高等学校 校長	津島 節	
県立青森商業高等学校 校長	田中 正也	
県立北斗高等学校 校長	中山 康夫	

■ 令和8年度

職名	氏名	備考
県立青森高等学校 校長	中川 伸吾	
県立青森西高等学校 校長	川浪 泰浩	
県立青森東高等学校 校長	千葉 栄美	
県立青森北高等学校 校長	三浦 真	
県立青森南高等学校 校長	和田 浩康	
県立青森中央高等学校 校長	中山 康夫	
県立浪岡高等学校 校長	山内 拓雄	
県立青森工業高等学校 校長	山口 正実	
県立青森商業高等学校 校長	田中 正也	
県立北斗高等学校 校長	菊池 真理子	

【参考3】学校の在り方地区検討委員会の開催状況（東青地区）

	年月日	内 容
1	令和7年11月26日	○ 学校の在り方について ○ 学校配置について
2	令和8年 1月26日	○ 学校配置について
3	令和8年 4月20日	○ 学校配置について
4	令和8年 5月20日	○ 検討結果報告書（案）について

【参考4】地区懇談会（令和7年10月実施）等の主な意見

<学校の在り方>

- ①本県の先頭に立ち将来の青森県を担いリーダーとして活躍する人財や本県のみならず将来の日本を担う優秀な人財を育成する学校、②本県や地域の先頭に立ち本県や地域に貢献できる人財を育成する学校、③スポーツ等の学力以外で秀でた能力を伸ばせる学校が必要である。
- 本人が抱える事情や家庭の事情等で学習に取り組めず、学校生活を送ることが難しい生徒もいる。こうした様々な事情を抱えた生徒にも、基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける学習を保障し、社会で生きていくために広く必要となる資質・能力を育成する学校が必要である。
- グローバル探究科のIBコースの教育活動は次期学習指導要領が目指すものと合致しているため、今後は、このような教育活動の更なる充実と他校への広がりを期待している。

<学校配置>

- 1校を集中的に学級減すると、学校規模が急激に小さくなり活力が失われ、充実した教育活動の展開が困難になることから、満遍なく学級減していくのがよい。
- 将来を見据えると統合もあり得る。県立高校の配置状況等を考慮すると、青森東高校、青森工業高校及び青森商業高校の統合が考えられる。
- こどもが減っているため統廃合は仕方ないが、一極集中しすぎている。せめて小規模の進学校を県内に満遍なく設置することはできないか。

<その他>

- 職業学科において専門性を生かした学びを実現するには1学級35人では多いと感じる。
- 職業学科を有する学校が学級減等の対象となれば、専門性を生かした学びが実現できなくなるのではないかと危惧している。